

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	一進一退の状況にある	緩やかに持ち直しつつある	↗
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店販売は、インバウンド需要や衣料品を中心としたセレモニー需要の増加などにより、前年を上回っている。スーパー販売は、商品単価の上昇により、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、引き続き行楽需要が好調であり、前年を上回っている。乗用車販売は、国内向けの生産増加により納期が改善しており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、新規出店効果のほか、食料品や衣料品などが好調であり、前年を上回っている。家電大型専門店販売、ホームセンター販売は、前年並みで推移している。旅行取扱高は、全国旅行支援及び水際対策の緩和により、引き続き国内外への旅行が増加している。

(主なヒアリング結果)

- 外国人旅行客の増加により、免税品やお土産（お菓子）の売上が増加。2月以降では、冠婚葬祭用の衣料品の売上が増加したほか、バレンタイン商戦は過去一番の売上となり好調であった。また、3月以降は送別会等の機会の増加に伴い、ギフト商品の売上も増加した。（百貨店、大企業）
- 1月は値上げに伴い売上が増加していたが、2～3月にかけては、買い上げ点数、来店客数が減少しているため、前年と同水準の売上高となっている。（スーパー、中小企業）
- 引き続き行楽需要は好調。新たに低価格商品の取扱いを始めたほか、高付加価値商品の販売も好調であり、売上は増加している。（コンビニ、大企業）
- メーカーも挽回生産しているが、受注数が納車数を上回っており、受注残が増加している状況。車種によっては納車見込みがたらず商談不可とする車種もある。（自動車、中小企業）
- 全国旅行支援の期限を前に年明けから駆け込み需要があり、国内パッケージ旅行が好調に推移した。割引率は縮小したが、コロナウイルスの感染が落ち着いたことで、需要は増加している。（旅行代理店、中堅企業）
- 稼働率はコロナ前を超える水準で推移している。3月は全国旅行支援終了前の駆け込み需要により、稼働率が伸びている。（宿泊、中堅企業）
- 全国旅行支援の効果などもあり、入場者数、宿泊者数ともに前年を上回っている。また、外国人の利用者はコロナ禍前の5割ほどの水準まで回復している。（娯楽、大企業）
- 都市部の店舗で、インバウンド客の増加や、コロナの影響緩和により人流がさらに増加していることから売上が増加している。（飲食、中小企業）

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械の自動車は、供給制約の影響が緩和されたことにより、生産台数が増加している。鉄鋼は、海外需要などが伸び悩んでいることから横ばい圏内で推移している。電子部品・デバイスは、海外向けなど一部に弱含みの動きがみられるものの、高水準で推移している。造船は、受注残高は増加傾向にあり、一定の操業を維持している。このように、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。

- 足下では部品不足が和らいでおり、3月以降は例年並みの生産台数となる見込み。受注も引き続き好調。今後についても楽観視はしていないが、昨年後半に見られたような生産台数の急激な落ち込みは当面ないのではないかと見ている。（輸送機械、大企業）
- 受注、生産とも前四半期比でほぼ横ばい。自動車向けが伸び悩んでいるほか、中国の鋼材需要もあまり良くない。先行きもどうなるか読めない状況が続いている。（鉄鋼、大企業）
- 引き続き自動車メーカー減産の影響や中国市場の落ち込みが見られるものの、受注残解消のためフル稼働に近い水準での生産が続いている。（情報通信機械器具、大企業）

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は改善の動きが継続しているほか、新規求人数も前年を上回って推移するなど、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- より好条件の企業へ人が流れており、経験を有する技術職など求める人材を確保できていない。派遣や非正規雇用の従業員も賃金を上げないと集まらない。（電気機械、大企業）
- コロナ禍で離職した従業員が戻っておらず、人手不足から営業時間を短縮している店舗もある。同地域の同業他社よりわずかに時給をあげるなどの対応をしているが、状況は厳しい。（飲食、中小企業）
- 有効求人倍率は上昇しているほか、宿泊業・飲食サービス業等からの新規求人数も増加するなど、雇用情勢は改善している。また、賃金動向としては、求人票を出す企業の多くが同業他社の賃金水準を気にしている様子が伺える。（公的機関）

■ **設備投資 「4年度は増加見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減少見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「生産用機械器具」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「不動産」等で減少見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「金融、保険」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

➢ 通信関連や自動車向けなど広範囲で需要拡大が継続しており、シリコンウエハー関連の高精度化・生産能力増強の大型投資を実施するため、増加見込みとなっている。(非鉄金属、中堅企業)

➢ 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、投資の抑制を行い、維持更新が中心であったが、今年度は維持更新に加え、ビル建設などを予定しており、増加見込みとなっている。(運輸、郵便、大企業)

■ **企業収益 「4年度は増益見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減益見込みとなっているものの、「電気機械器具」、「非鉄金属」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「建設」等で減益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「生活関連サービス」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **住宅建設 「前年を上回っている」**

- 新設住宅着工戸数で見ると、貸家、給与住宅が減少しているものの、持家、分譲住宅が増加していることから前年を上回っている。

■ **輸出 「前年を上回っている」**

- 輸出 (円ベース) は、前年を上回っている。なお、輸入 (円ベース) は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査 (5年1-3月期) の景況判断BSIで見ると、5年1-3月期は、「下降」超に転じている。先行きについては、5年4-6月期は、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回 (5年1月判断)	今回 (5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
佐賀県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、物価上昇等の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
長崎県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。